

CSR報告書 **NITTOC** 2012



「守る」技術で、つながる、未来へ。



もくじ

■ 社長メッセージ	02
■ 会社概要	03
■ 財務状況	03
■ 会社の活動方針	04
■ コーポレートガバナンス・コンプライアンス	05
■ 人材育成	07
■ 環境活動	09
■ 社会貢献	21

編集にあたって

対象期間

平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月

ただし上記期間外の実績も一部で取り上げています。

対象範囲

当社とグループ会社の活動

発行時期

平成 24 年 12 月

問い合わせ先

日特建設株式会社 経営企画室

〒104-0061

東京都中央区銀座 8-14-14

TEL 03-3542-9164 / FAX 03-3542-9220

ホームページ「お問い合わせ」フォームからのお問い合わせが便利です。

ご意見、ご感想をお寄せください。当社の活動や報告書の改善に役立たせていただきます。



社長メッセージ

当社は現在、「基礎工事における総合技術力と効率的な経営で、安全・安心な国土造りに貢献する会社」の経営理念の下、中期経営計画 Step II（平成 23 年度～平成 25 年度）を策定し、安定基盤の構築に取り組むとともに、将来の成長戦略に向けた準備を進めています。

これらの活動はすべて、社会のさまざまな要請や期待に応えること、つまり CSR（企業の社会的責任）の履行を前提としています。たとえば、それはコンプライアンスであり、適時・適切な情報開示であり、社会貢献、環境活動、投資家満足・顧客満足・従業員満足の向上等、多岐に及びます。

一方、我が国は、成長から成熟への転換期を迎えています。それにともない、当社を取り巻く環境も大きく変化しています。

一つは、戦後の高度成長から 40 年余りを経て、社会資本を造る（つくる）時代から維持補修の時代に移行しつつあることです。

もう一つは、未曾有の自然災害を経験し、防災意識が高まるとともに、自然に対する畏敬の念が醸成され、災害に対する備えが「減災」という観点で語られるようになったことです。

当社は、従来のコスト縮減や環境への配慮というニーズに加え、こうした社会の新しい要請に応えることも CSR の一環であると認識し、それによって自らの企業価値を高めていく所存です。

本報告書をご一読いただいて、当社の活動に対し、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

代表取締役社長 中森 保

会社概要



● 会社概要

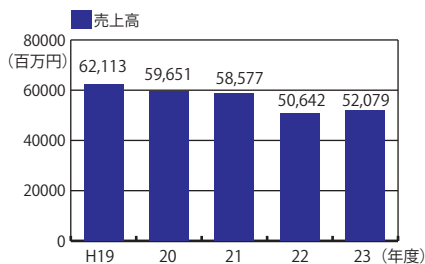
■商号	日特建設株式会社 NITTOC CONSTRUCTION CO.,LTD	■許可	建設業許可 特定建設業 国土交通大臣（特-23）第 211 号
■本店	東京都中央区銀座 8 丁目 14 番 14 号	■登録	建設コンサルタント登録 登録番号 建 21 第 15 号
■設立	昭和 22 年 12 月 17 日		測量業者登録 登録番号 第（13）-435 号
■資本	発行済株式総数 43,919 千株 資本金 60 億円 東京証券取引所 第一部上場		地質調査業者登録 登録番号 質 24 第 2 号
■代表者	代表取締役社長 中森 保	■免許	宅地建物取引業 東京都知事（1）第 91766 号
■社員数	技術系社員 711 名 事務系社員 111 名 計 822 名	■指定	土壤汚染調査機関指定業者 指定番号 環 2003-1-20
■業績（連結）売上高	521 億円	■事業所	本店 / 東京 支店 / 札幌・東北・東京・北陸・名古屋・ 大阪・広島・九州
	経常利益 19 億円		直轄部 / 直轄グラウト部
■営業種目	総合建設業 ・土木・基礎 ・環境・地質コンサルタント		

※売上高、経常利益は、平成 24 年 3 月 31 日現在
発行済株式総数、資本金は、平成 24 年 12 月 1 日現在

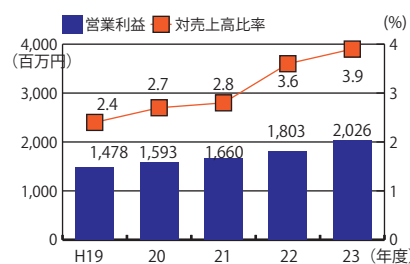
※地質調査業者登録番号は、平成 24 年 12 月 1 日現在

● 業績(連結) 平成24年3月31日現在

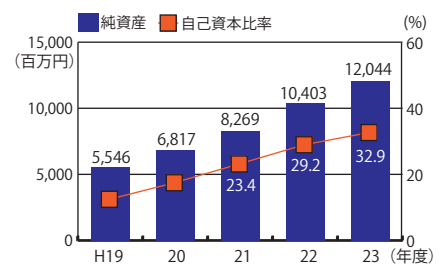
■売上高



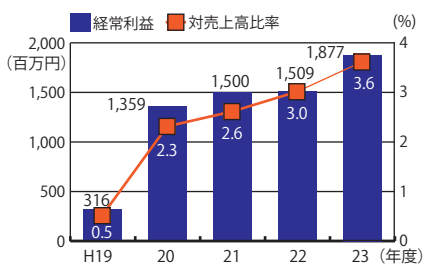
■営業利益・対売上高比率



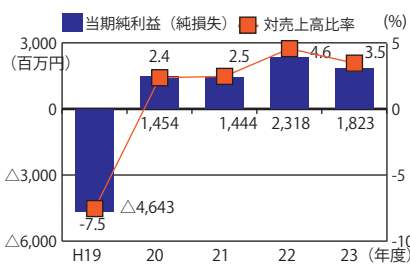
■純資産・自己資本比率



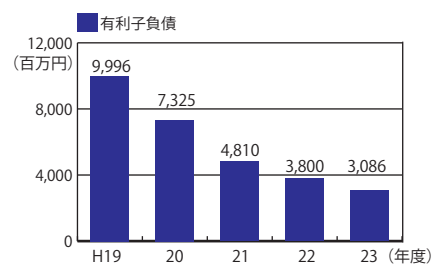
■経常利益・対売上高比率

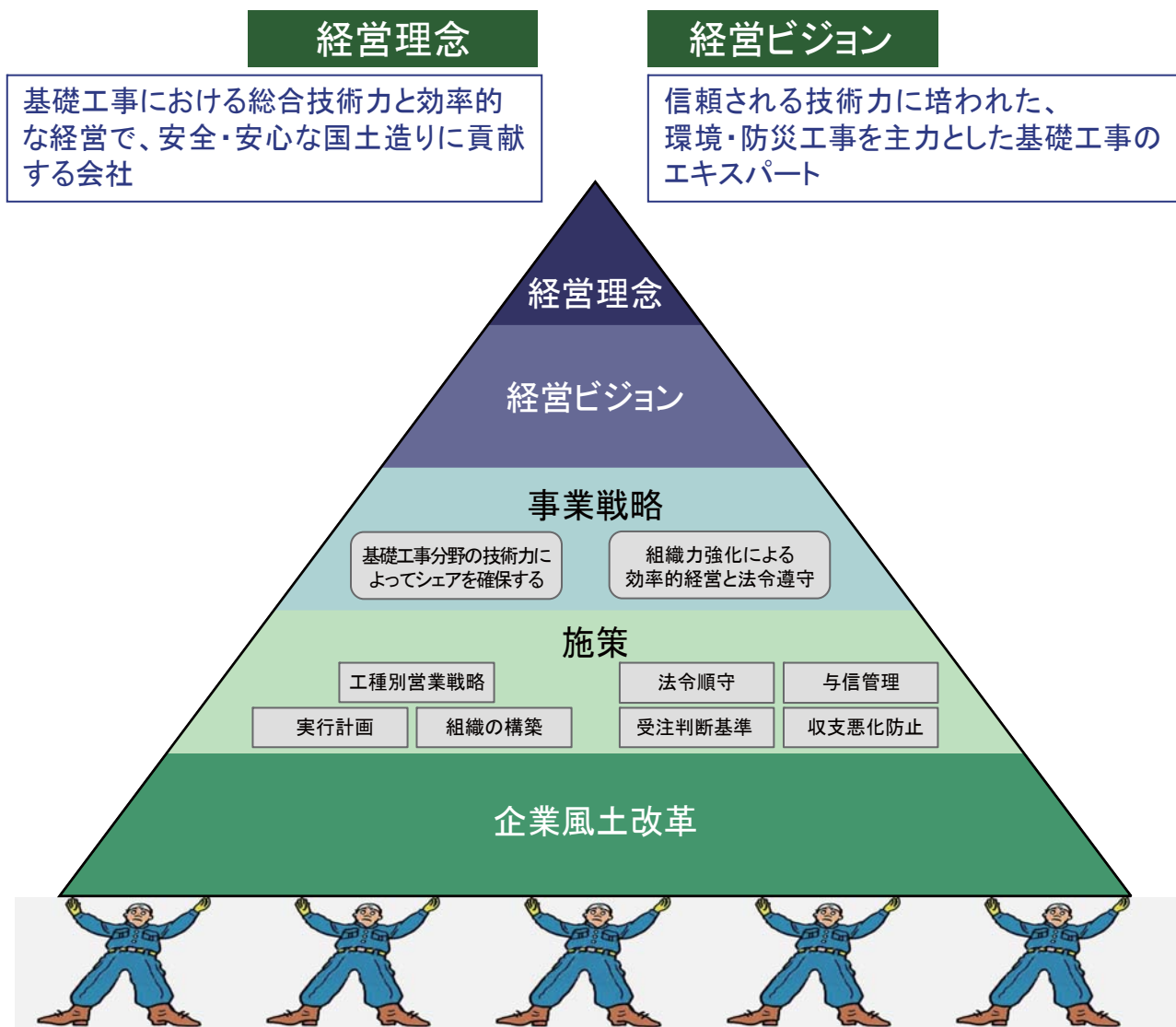


■当期純利益（純損失）・対売上高比率



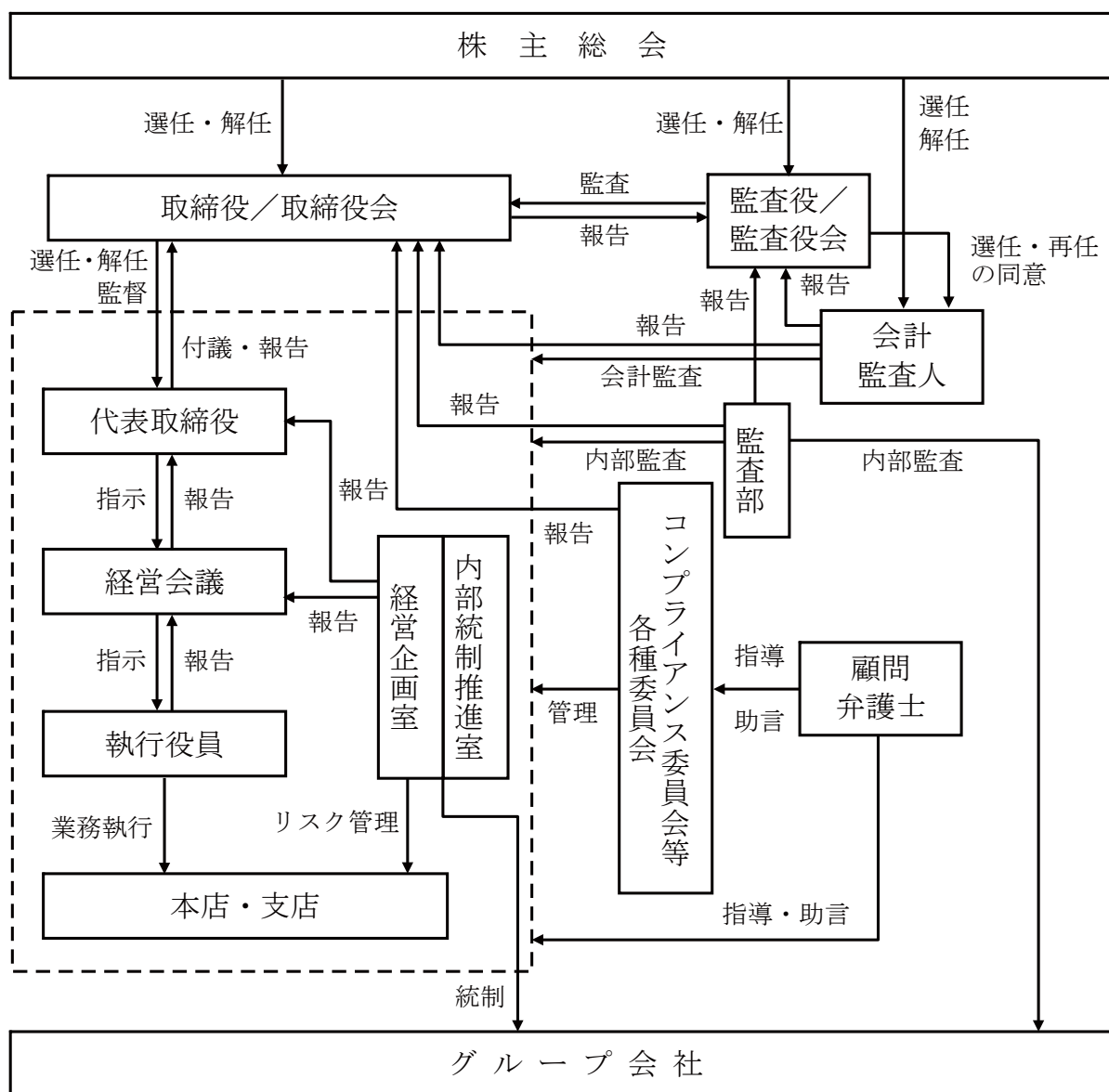
■有利子負債





● コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業活動を支えるすべてのステークホルダーの利益を重視し、かつ各種法規範のみならず、社内規範や社会の良識・常識をも遵守した企業倫理の重要性を認識するとともに、企業の継続的な発展と、社会的信用の獲得、また、反社会的集団に対する不当利益供与の根絶等、経営の透明性、健全性を高め、社会基盤の整備に貢献できる組織の構築をコーポレート・ガバナンスに関する基本的な方針としております。



行動規範 — コンプライアンス基本方針 —



私たちは、事業を営む者として企業の社会的責任を自覚し、法令や社内外のルールおよびその精神を遵守するとともに社会的良識をもって、以下の通り行動します。

- 1 私たちは、社是である「日々是進歩」、および社訓である「安全第一、信用確立、技術発展」を常に踏まえた企業活動を行い、経済や社会の発展に貢献します。
- 2 私たちは、法令や社内ルールを遵守するだけでなく、企業倫理に基づいた企業人として誇れる行動を通じて、社会からの信頼に応えるように努めます。
- 3 私たちは、「開かれた企業」として適時・適切に企業情報の提供を行なうとともにステークホルダーをはじめとする社会からの声に耳を傾け企業活動に反映させるように努めます。
- 4 私たちは、環境問題への取組は企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動します。
- 5 私たちは、地域で働く企業人として地域との融和に努め、地域活動にも自主的に参加し、地域社会に貢献できるように努めます。
- 6 私たちは、お客様の要望に誠実に応えるとともに、お客様の目線でものを考え、お客様本位の対応を行ないます。
- 7 私たちは、取引先と透明性の高い公正で健全な関係を築き上げ、相互の繁栄を考えた取引を行なうように努めます。
- 8 私たちは、誠実かつ健全な企業活動を継続することで、社会から信頼される企業となるよう努めます。
- 9 私たちは、従業員の人権を尊重し、個性を認め合い、十分なコミュニケーションを心掛けることで、安全で快適な職場を築きます。
- 10 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体には厳しく対処します。

人材育成・就労制度

人を育てていくこと、それが未来を創ることになる

教育制度 一人ひとりを大切に、社員の可能性を引き出す人材育成システム

「人と社会と環境に調和する特殊技術を、未来のために」

私たちはこのコンセプトのもと、未来の夢のため、将来を見据えた教育制度を整えています。

さらに社員一人ひとりの気持ちを大切に、個性を伸ばしていくことで、

優れた専門性とさまざまなものごとに興味を持つ、多様性を併せ持った人物に成長していったらいい。

そんな人材を育てることが、日特建設の人材開発の目標です。

階層	研 修						外部派遣		技能資格
	階層別研修	カテゴリー共通研修	カテゴリー別研修				国 内	海外	社内認定資格
本部長 副本部長 支店長 副支店長 事業部長 部長 次長	支店長・ 事業部長 研修	各種職場内(COI) SOC内部監査員養成研修 研修語学(英語) 海外視察・研修 海外工事派遣・研修	作業所・工事管理・技術		施工指導	営 業	事務管理	国内派遣 <	

資格取得支援 社員は財産、そのスキルアップが会社のスキルアップ

事業を行っていく上で必要な資格について、各種の支援を行っています。

特に、現場代理人を務めるために必要な1級土木施工管理技士については、研修や論文添削などを行っています。また、技術士については、日特建設技術士会が支援の中心となり支援を行っています。

全般には、資格取得者には資格手当を支給し、取得へのモチベーションを高める働きをしています。

	手当を支給する資格(取得一時金を含む)
技術系社員	技術士、1級・2級建築施工管理技士、1級・2級土木施工管理技士(土木、薬液注入)、1級・2級建築士、1級・2級造園施工管理技士、1級・2級管工事施工管理技士、1級・2級建設機械施工技士、1級・2級電気工事施工管理技士、第1・第2・第3種電気主任技術者、第1種・第2種電気工事士、甲種・乙種火薬取扱保安責任者、測量士、測量士補、地質調査技士、基礎施工士、地すべり防止工事士、第1・第2種下水道技術検定合格者、推進工事技士、コンクリート診断士、自動車整備士 1級・2級・3級、甲種・乙種危険物取扱者、労働安全・衛生コンサルタント、公害防止管理者、公害防止主任管理者、グランドアンカー施工士、建築積算士、工事管理者(新幹線・在来線)、ジェットグラウト技士、のり面施工管理技術者
事務系社員	公認会計士、公認会計士補、税理士、弁理士、不動産鑑定士、不動産鑑定士補、宅地建物取引主任者、土地家屋調査士、1級・2級建設業経理士、システム監査技術者、ITストラテジスト(システムアナリスト)、システムアーキテクト(アプリケーションエンジニア)、プロジェクトマネージャ、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、情報セキュリティスペシャリスト、ITサービスマネージャ、社会保険労務士、衛生管理者、応用情報技術者(第1種情報処理技術者・ソフトウェア開発技術者)、3級建設業経理事務士、基本情報技術者(第2種情報処理技術者)、ITパスポート(初級システムアドミニストレータ)、1級簿記検定

● 就労制度 働きやすい職場だからこそ、最高のパフォーマンスが生まれる

各種の就労制度を取り入れ、社員に働きやすい職場を目指しています。
例：育児休暇、短時間勤務等

社員の声

私には 4 歳と 1 歳の子供がいます。それぞれ育児休暇を取得後に職場復帰し、現在は短時間勤務させていただいています。まだ世話の焼ける年頃の子供たちと一緒に過ごす時間を確保でき、非常に助かっています。また、周囲の皆さんのご理解とご協力により職務内容についても配慮して頂き、感謝しています。

技術本部 技術営業グループ 藤井真希

● 社内表彰制度 一人ひとりが輝く会社

社内の活性化と社員のモチベーション向上を目指し、様々な表彰制度を設けています。

社員の声



★社長賞受賞（営業）

今回の受賞は私の個人表彰ではなく、本支店関係者が一致団結し最後まで諦めること無く、事業計画達成に向けて邁進した組織の表彰だと感じています。今後も、与えられた職責を全うし、組織が一丸となるよう行動し、事業計画を達成し続けていく所存です。

東京支店 石丸 健治

● グローバル社員の育成 国際社会への対応

海外研修や海外工事現場への出向、インドネシア人技術者の教育を通じ、国際社会への対応を図っています。

社員の声



今後、日特の高い技術力が求められるであろう海外工事の研修で香港に派遣されています。

工事規模がダイナミックであることに驚かされる一方で、ルール、風土・気質の異なる環境の中でも日本と変わらない「日特の品質」を保っていくにはどうすればよいかと日々考えています。

東京支店 高橋 正大



● 技術本部 環境方針

日特建設は、環境・防災・都市再生・維持管理関連の専門技術を得意とする総管理力のある建設会社として、広く社会に貢献することを経営理念のひとつに掲げている。

技術本部は、この経営理念に基づき、限りある資源の有効活用と環境への負荷低減のため、資源循環社会の構築に向けた研究・開発及び設計・検討等を進めるとともに、生態系のあり方に学び、真の環境共生型保全技術の研究・開発及び設計・検討によって、その最適環境の創造を図るなど、地球環境の保全に取組み広く社会に貢献するため、下記の事項を業務活動の指針と定める。

1. 技術本部は、地球環境の保全活動を事業活動の一つと位置付ける。地球環境への負荷低減を目指し、環境マネジメントシステムの改善を図るとともに継続的向上に努める。
2. 限りある資源の有効利用と環境への負荷低減に向けた資源循環社会と、人を含む地球上の生物の環境共生型社会の構築に向けた研究・開発及び設計・検討等を進める。
3. 廃棄物量低減、リサイクル率向上、省資源、省エネルギー、生態系保全、景観保全、環境保全型商品利用の促進などを目指した活動を推進する。
4. 環境関連の法規制、協定書、顧客及び業界の要求事項を遵守し、環境保全に関する社会的責務を積極的に果たす。
5. 技術本部の要員への環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努める。
6. 顧客及び地域社会との協調を図るため、必要に応じ環境方針及び環境保全活動の実施状況を公開する。

● 環境マネジメントシステム

■ 環境マネジメントシステム構築から現在までの歩み

1999年2月に各環境関連部署の環境管理推進委員から構成される環境委員会事務局を、さらに1999年10月に環境管理責任者を委員長とする審議機関「環境委員会」を設置し、同年11月に「日特建設株式会社技術本部環境方針」を發表しました。

その後、環境マネジメントシステムの構築を図り、2000年3月、技術本部としてISO14001環境マネジメントシステムを審査登録しました。

2003年3月には第1回更新審査にて登録更新が承認され、2006年2月には第2回更新審査(移行審査を含む)にて登録更新および2004年版への登録移行が承認されております。更に2008年12月に第3回更新審査、2011年12月に第4回更新審査にて登録更新が承認されております。



CM001

登録番号 JSAE 222

登録者名：日特建設株式会社 技術本部
登録範囲：環境、防災、都市再生、維持管理関連の建造物及び施工方法等に関する研究・開発、設計・検討及び品質試験における、
①環境有益性評価に基づく、研究・開発テーマ及び設計・検討の実施
②事務所での紙使用量・廃棄物排出量の削減を推進するための環境マネジメントシステム

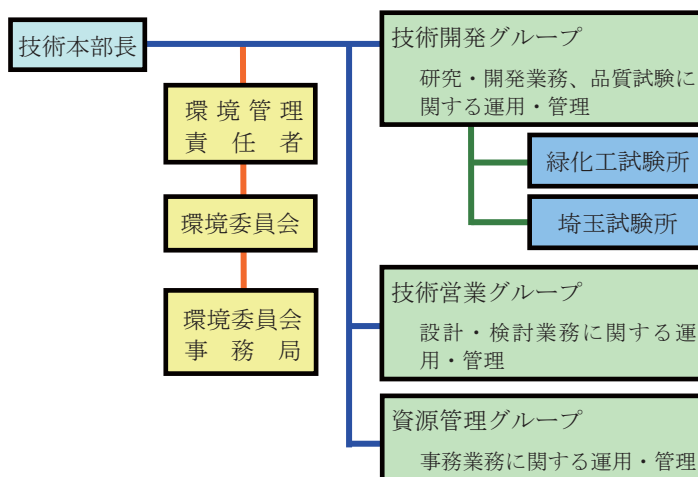
1999年02月：環境委員会事務局を設立
1999年10月：環境委員会設立（委員長：環境管理責任者）
1999年11月：「日特建設株式会社 技術本部 環境方針」を策定
1999年11月：部署内の環境マネジメントシステムの構築・運用を開始
2000年03月：環境マネジメントシステム審査登録（財団法人日本規格協会）
2001年03月：第1回定期維持審査により登録継続の承認
2003年03月：第1回更新審査により登録更新の承認
2003年04月：「日特建設株式会社 技術本部 環境方針」を改訂
2006年02月：第2回更新審査（移行審査を含む）により登録更新・登録移行の承認
2008年12月：第3回更新審査により登録更新の承認
2011年12月：第4回更新審査により登録更新の承認

■ 運用組織

環境管理責任者は、環境目的・目標を達成するために「環境管理計画書」を策定して、技術本部の環境保全活動の推進を図るとともに、年度毎の成果の評価や見直しを行い、次年度の各部署の目標を立案しております。

当技術本部は、2006年4月に組織の変更が行われ、技術開発・技術営業・資源管理の3つのグループにより環境マネジメントシステム（EMS）の運用を行っております。

技術本部環境マネジメントシステム運用組織図



■環境マネジメントシステム監査

環境マネジメントシステムが、正しく有効に機能していることを検証し、指摘事項の抽出とその予防処置を行うことを目的に、内部環境監査員による監査と審査登録機関による定期維持審査で、二重に環境マネジメントシステムを監査する体制を採っております。

・外部審査

外部審査登録機関による第4回更新審査を2011年12月7日～8日に受けた結果、指摘事項1件、観察事項5件がありました。指摘及び観察事項については速やかに是正および予防措置を講じ、今後も適切な運用を目指します。

・内部監査の実施状況

内部監査は、1回／年実施しております。監査結果は、技術本部長に報告され、経営層の見直しの重要な資料として活用されます。直近の内部監査の結果については、以下のように総括され、不適合および指摘については速やかに対応しております。

内部環境監査結果（2011年11月1日～11月10日実施）

監査項目	合 格	指摘事項および改善課題		
		重大な不適合	軽微な不適合	推奨事項
57	55	0	0	2

■継続的改善

システムの継続的な向上を目指し、環境目的・目標は年度末に見直しを行い、新たな目標を設定し活動を行っています。

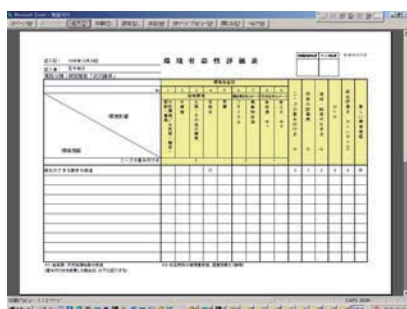
技術本部では、毎月実施する全体的な教育と、適宜各グループで実施する教育との2本立てで環境教育を行っています。全体的な教育は、その重要性を再認識し確実に実施させるため、月に一度の技術本部のミーティングの中で行っています。そのほか、外部機関による内部監査員養成研修に参加するなどして、環境マネジメントシステムに関する意識・技術の向上に努めております。

● 環境目的・目標達成の状況

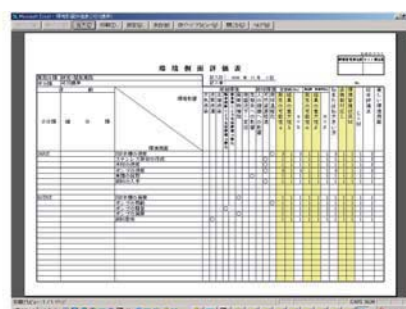
■ 環境目的・目標

日特建設株式会社技術本部環境マネジメントシステムでは、各業務において具体的な目標を定め、環境負荷低減・環境保全活動を行っています。

本マネジメントシステムの特徴は、環境に有害な影響の評価を行い、その低減を行うに留まらず、環境に有益な間接的な環境影響を有する土木工法を評価して、その研究・開発および設計・検討を通じてその工法の普及を図るところにあります。そのために、「環境有益性」の評価手法を確立させ活用しております。



環境有益性の評価



環境有害性の評価

技術本部の環境目的・目標（2011 年度）

管理区分	環境目的	環境目標
事務業務 (研究・開発、設計・検討業務の事務的側面を含む)	1. コピー用紙の使用量を減らし 環境への負荷を低減する。 2. 一般廃棄物のリサイクル率を高めて 環境への負荷を低減する。	① 特に数値目標を置かない。 ② 既に定着した、用紙削減、節電とリサイクル活動を継続する。
研究・開発業務	1. 研究・開発業務実施要領で示された適用範囲のうち、技術本部の環境目的に示した著しい環境側面（有益な環境側面）を有する研究開発テーマを実施する。	著しい環境側面（有益な環境側面）に配慮した研究開発テーマについて、実施計画書に基づいて実施する。 ① ジオファイバー
設計・検討業務	・ 設計・検討業務実施要領で示された適用範囲の設計・検討業務について、 ① 省エネ ② 省資源 ③ 大気質保全 ④ 水質保全 ⑤ 自然環境保全 ⑥ 地盤環境の保全 ⑦ 掘削量の削減 ⑧ 廃棄物の削減 ⑨ 廃棄物のリサイクル 上記 9 項目に該当する場合は確実に配慮する。	設計・検討に対する帳票の入力 100%とし、該当するものに関しては環境側面に配慮した設計検討を実施する。

■環境目的・目標達成状況

(1) 研究・開発および設計・検討業務での活動

研究・開発業務、設計・検討業務の実施・達成状況を下表に示します。研究開発業務に関しましては、設計方法に関わる開発項目の一部が完了せず達成率 80%となりました。そのため、専門家の指導を仰ぎながら、次年度以降継続して開発を進めることとしました。また、設計・検討業務については、環境側面に該当する物件が 5 件であり、帳票入力状況の達成率が 90%となりました。これは定期的な進捗管理と 100%を目指すための担当者に対する指導が不足していたことによります。本年度の成果を生かし、次年度は是非とも目標達成できるように努めていく所存です。

取り組み項目	実施内容	達成状況
研究・開発業務	設計方法に関わる開発項目の一部が完了しなかった。	達成率 80%
設計・検討業務	5 件の設計検討業務について、環境への配慮を実施できた。	達成率 90%

(2) 事務業務での活動

・コピー用紙使用量削減

省資源の立場から、紙の使用量削減、再生紙使用の推進に取り組んでいます。また、分別収集の容器やリサイクルボックスを設け、紙やゴミの削減とリサイクルによる資源再利用の推進を図っています。今年度のコピー用紙の使用量は、パンフレット・資料等の電子化により、一人当たり 3,641 枚でした。前年度実績の 3,847 枚と比較し 5.4%のダウンすることができました。また、リサイクル率については、前年度比 18.9%向上することができました。

・一般廃棄物リサイクル率の向上

一般廃棄物を分別し、その発生量の削減を図っております。リサイクル率は、34.8%であり、昨年度実績 31.0%に比較し、3.8%向上することができました。コピー用紙、一般廃棄物とも既にリサイクルが定着しておりますが、継続的にリサイクルを進めるためさらなる改善を行なうことが大切だと考えております。

取り組み項目	実施内容	実績	昨年度	実施結果
紙の消費量削減	コピー用紙の一人当たりの使用枚数	3,641 枚/人	3,847 枚/人	前年度比 5.4% DOWN
	コピー用紙の裏面利用等によるリサイクル率の向上	159.4 %	140.5 %	前年度比 18.9% UP
一般廃棄物 リサイクル率の向上	リサイクル促進	34.8 %	31.0 %	前年度比 3.8 UP

● 環境保全への取り組み ―環境配慮型技術の開発・普及―

日特建設技術本部では従来から環境にやさしい技術の開発・普及を目指して参りました。今年度も引き続き環境に配慮した技術の研究・開発を進めるとともに、環境の保全に貢献すべく、設計・検討業務を通じて、それらの技術の提案・普及を図って参りました。以下にその一部を、当社の特徴である「環境」、「防災」、「維持補修」、「都市再生」に従ってご紹介いたします。

環境

自然環境の保全と回復

開発や災害によって裸地化した斜面が、自然の回復力で再び緑を取り戻すためには、長い年月が必要です。緑化には景観上の問題だけでなく、防災的役割や自然環境の保全の役割も期待されます。

当社は、特色ある斜面の景観・自然環境の保全・回復技術を開発・保有しており、その豊富な実績に基づいて、これら環境にやさしい工法を幅広く設計・検討に活用しています。



文化財の景観を考慮した植生工

ジオファイバー工法により、地域性・文化財としての景観を考慮した緑化と、斜面の安定を高次元に両立させました。



周辺の景観・生態系に調和した緑化

カエルドグリーン工法による森林表土中に含まれる埋土種子を利用した緑化を行いました。

埋土種子の利点は、地域個体群の遺伝的攪乱の防止の観点からも有効です。

循環型社会をめざすリサイクル技術

当社は、社会的課題となっている産業廃棄物のリサイクル向上技術を基に、循環型社会の形成に向けた取り組みを行っています。特に建設現場で発生する現地発生土、伐採樹木の有効活用を目指した緑化工法を開発しています。

環境



ネッコチップ工法

現地発生表土、伐採木を利用して植生基盤を生成し法面緑化を図る「リサイクル」型緑化工法。



カエルドグリーン工法

土工事によって発生した建設発生土を、植生基盤として「緑の斜面」に再利用する工法。

防災

環境にやさしい防災技術

当社は、環境・防災・維持管理関連の専門技術を得意とする建設会社として、環境に配慮した防災技術の開発を進めて参りました。これらの技術のさらなる環境影響低減を目指して研究・開発を進めるとともに、設計・検討を通じて技術の普及を図っております。



既存木を生かした斜面対策工

ジオファイバー工法により、既存木を出来る限り残して、斜面の安定化を図りました。



トンネル坑口斜面の景観創出

ジオファイバー工法により、トンネル坑口斜面の安定を図りながら緑の景観を創出しています。



緑化受圧板の使用

緑化可能な受圧板を使用し、景観に配慮しながら、斜面の安定化を図っています。

防災

液状化対策技術

近年、日本各地で大地震の発生が予想されており、既設構造物やその周辺、護岸やタンクの基礎等の耐震補強として液状化対策が求められています。このような場所では、建物の真下の対策が難しいことなど施工条件が厳しく、地上から大型機械で行う液状化対策では施工することができませんでした。当社では、浸透性の優れる恒久グラウトを使用して、注入技術による既設構造物の液状化対策を行っています。



大容量・急速施工の液状化対策注入工法

エキスパッカ-N工法は、高速・広範囲に注入材を吐出できる特殊な注入管によって、既設構造物に影響を与えることなく、スピーディに地盤を改良する液状化対策注入工法です。改良径3mの造成が可能のため削孔本数が大幅に低減でき、省資源・低コストの地盤改良工法です。

構造物の補修補強技術

これまでコンクリート構造物はメンテナンスフリーと考えられていましたが、その早期劣化が近年問題視されており、これまでに大量築造されたストックが老朽化する時期を迎え、製造後の新たな対象を含めて、維持管理の重要性が認識されて来ています。

過去のマニュアルの見直しをはじめ新技術・工法の開発も活発であり、更に補修・補強工事においては現状を把握した対応（技術提案等）能力が施工者へ求められている現状にあります。日特建設では保有技術はもとより、施工実績による技術蓄積や新技術を広く吸収・活用することにより、環境負荷に配慮した補修・補強工法を展開します。



トンネル補修工、橋脚補強工、表面被覆工

水を汚さないセメント充填工法

構造物の補修・補強を目的として、そのひび割れやすき間にセメント系の材料を注入する工事をセメント充填工事（グラウト工事）と言います。

これまで水辺の構造物（ダム、河川護岸、港湾岸壁等）を対象とするセメント充填工事では、ひび割れやすき間から、まだ固まらないセメントが溶け出して水質を汚染する心配がありました。一方、セメントを水に溶けにくくする混和剤（水中不分離剤）を使用すると、材料の流動性や強度が必要以上に低下するという問題がありました。

当社は、特殊な可塑剤を用いることで、流動性の調整が可能で、強度が高く、しかも水に溶けにくいセメント系の材料とその充填工法を開発しました。今後、水辺の構造物の充填において、環境に与える負荷を低減しながら、設計上のさまざまな要求に応えることができます。



パフェグラウト工法

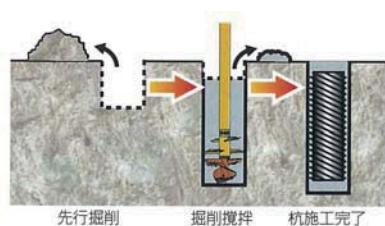
多様な配合設計が可能なパフェグラウト（セメント系材料）と高品質な制御を行うCOGMAシステムを組み合わせた新しいセメント充填工法。

パフェグラウトは流動性の調整が可能で強度が高く水に溶けにくいので（左写真参照）、パフェグラウト工法は水辺の構造物の充填を初めとして多方面で実績がある（右写真参照）。



廃棄物を押さえたクリーンな工法

社会環境の大きな変化や、都市問題の顕在化により、「都市の再生」への取り組みが強く求められています。当社は得意とする掘削、地盤改良の分野で、都市環境の改善に寄与できる技術の開発・普及に努めて参りました。都市土木においては、建設発生土などの産業廃棄物発生抑制、騒音・振動などの低減が求められます。当社は排泥や騒音・振動の少ない工法の開発に取り組み、その成果を設計・検討に取り入れることにより普及を図っております。



低コスト + 環境配慮型の杭工法

HYSO (ハイエスオー) 工法は、地盤中に造成したソイルセメント柱の中にリブ付き鋼管を沈設して基礎杭を構築する工法です。従来の場所打ち杭工法に比べ低振動、低騒音で、建設発生土の発生を大幅に削減できるほか、セメント混じりの排土の発生を抑制できます。

● 環境に関する法律遵守の状況

技術本部で該当する直接的な法規制は、実験に伴い発生する産業廃棄物のマニフェスト交付と浄化槽管理（埼玉試験所）にかかわる法規制のみであり、適正に対応しております。

● 環境情報開示

■ 主な技術展示会出展の実績（2011 年度）

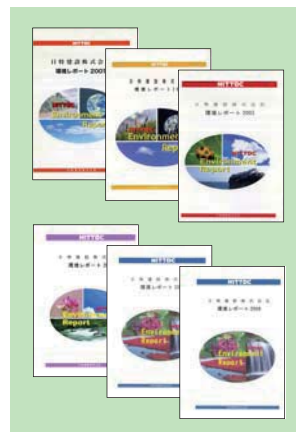
展示会名称	主催	会場	期間	展示内容・工法
第 46 回地盤工学研究発表会(技術展示コーナー)	(社)地盤工学会	神戸国際展示場	7 月 5 日(火) ～ 7 月 7 日(木)	㈱不動テトラとの共同出展/ Licos, Aki-Mos, エキス パッカ-N工法, R e. ボ ーン-パイル工法
フクイ建設技術フェア	福井県建設技術公社他	福井県産業会館	9 月 28 日(水) ～ 9 月 29 日(木)	ジオファイバー工法, カ エルドグリーン工法, パ フェグラウト工法, ニュ ーレスプ工法, エキス パッカ-N工法
九州建設技術フォーラム	九州建設技術 フォーラム実行委員会	福岡国際会議場	10 月 25 日(火)	ニューレスプ工法, エキ スパッカ-N工法
建設技術フェア in 中部	建設技術フェア in 中部 実行委員会	中部技術事務所	10 月 26 日(水) ～ 10 月 27 日(木)	ニューレスプ工法, パフ ェグラウト工 法, Licos, Aki-Mos
ハイウェイテクノフェア	(財) 高速道路調査会	東京国際展示場	10 月 27 日(木) ～ 10 月 28 日(金)	ニューレスプ工法, パフ ェグラウト工 法, Licos, Aki-Mos
建設技術展 2011 近畿	日刊建設工業新聞社 (社)近畿建設協会	マイドームおおさか	11 月 1 日(火) ～ 11 月 2 日(水)	㈱不動テトラとの共同 出展/ Licos, Aki-Mos, エキ スパッカ-N工法
けんせつフェア in 北陸	「けんせつフェア in 北陸」実行委員会	新潟市 産業振興センター	11 月 4 日(金) ～ 11 月 5 日(土)	ジオファイバー工法, カ エルドグリーン工法, パ フェグラウト工法, ニュ ーレスプ工法
建設技術フォーラム in 広島	建設技術フォーラム 実行委員会	広島県立産業会館	11 月 25 日(金) ～ 11 月 26 日(土)	ジオファイバー工法, エ キスパッカ-N工法

■ 環境報告書

日特建設技術本部では、2001 年より2011年まで、前年度の環境に関する活動状況を年次報告「環境レポート」としてまとめ、ホームページ上で公表しています。

■ インターネットホームページでの情報開示

当社ホームページに、環境レポート、技術本部で研究・開発および設計・検討している工法の技術説明を掲載しています。
日特建設ホームページ：<http://www.nittoc.co.jp>



● 環境会計

環境保全活動の効率的な推進と、正確な情報開示を目的に 2001 年度より環境会計を導入いたしました。

- 対象期間：2010 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日
- 集計範囲：日特建設株式会社 技術本部
- 算定基準：環境保全コストは、環境省「環境会計ガイドブック 2005 年度版」、(社)日本建設業団体連合会他「建設業における環境会計ガイドライン (2002 年版)」を参考に、当技術本部の実情を考慮して集計しました。人件費は環境に有益な研究テーマに対する比率で按分集計しました。減価償却費は含めておりません。環境保全効果は数量把握可能なものについてのみ記載しました。電気使用量、一般廃棄物については、技術本部が入居する当社分室ビル全体の量 (約 200 名所属) で計量しております。削減量は前期と今期の環境負荷総量の差として記載しております。

■ 環境保全コスト

分類		主な取り組み内容	費用額 (千円)			
			2011 年度	2010 年度	2009 年度	2008 年度
事業 エ リ ア 内	公害防止コスト	水質汚濁などの公害防止対策など	13	13	13	150
	地球環境コスト	地球温暖化防止対策など	0	0	0	0
	資源循環コスト	廃棄物の分別、リサイクル、適正処理など	2,408	3,555	715	1,775
上下流コスト		環境に配慮した設計・検討に係る人件費	537	777	194	759
管理活動コスト		環境マネジメントシステム維持および教育	3,164	2,729	2,747	2,860
研究開発コスト		環境に有益な研究テーマの研究開発費	24,940	22,791	23,748	22,950
社会活動コスト		環境情報公開、地域環境保全活動への協力	0	0	0	0
合計			31,062	29,864	27,417	27,209

■環境保全効果

効果の内容	指標の分類	単位	指標の値				
			削減量	2011 年度	2010 年度	2009 年度	2008 年度
事業活動に投入する資源に関する効果	コピー用紙使用量	枚	14,300	116,500	130,800	138,500	145,000
	電気使用量	千 kWh	82	269	351	333	374
	グリーン購入	購入比率 (%)	—	—	—	—	—
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	温室効果ガス排出量	t-CO ₂	31	102	133	126	141
	一般廃棄物	kg/年	▲673	13,265	12,592	17,895	12,940
	産業廃棄物	m ³	56.9	77.6	134.5	0	0
	再生利用される廃棄物	kg/年	1,418	7,067	5,649	7,883	7,659

温室ガス効果ガス排出量の算出は、環境省地球環境局「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン（試案 Ver1.6、平成 15 年 7 月）」に拠りました。

■結果と今後の取り組みについて

前年度と比較した環境保全効果は、コピー用紙使用量で 14,300 枚の削減、また電気使用量で 82 千 kWh の減少となりました。この結果、温室効果ガス排出量が 31 t 減となっています。

また、埼玉試験所で排出した産業廃棄物については、昨年度に比べ 56.9m³削減できましたが、一般廃棄物については、不要書類の整理により昨年度比 673kg 増加となりました。

今後も、さらなる廃棄物の削減、およびリサイクル率の向上に努めていきます。

地域貢献活動-1



日特建設は、社会から信頼される企業を目指し、地域貢献活動を推進しています。
その中から主なものをご紹介します。

● 現場見学会

地域市民の方々に当社の事業を理解していただくための現場見学会を、各地で開催しています。



■大阪支店 志高下境地区地盤改良工事作業所（京都府舞鶴市）では、2011年10月
地元の保育園の園児 25 人を招き、現場見学会を行いました。参加した園児に対し、紙芝居により当工事の内容を説明し、そのほかに花植や宝探しなどレクリエーションを行いました。参加した園児には、楽しみながら、土木工事に触れていただくことができました。

● 清掃活動等



■東京支店 代田作業所（東京都世田谷区）では
2011年4月から2012年3月、
毎週土曜日に現場外周の清掃を行いました。



■東京支店 糞谷作業所（東京都大田区）では、
2011年4月
現場付近の河川で不法係留船から漏れだすオイル流出を発見し、
船舶係留設置管理者からの要請により、
オイル拡散防止にオイルフェンスを設置して、
汚染拡大を防止しました。



■東京支店 糞谷作業所（東京都大田区）では、
2011年9月
現場付近の鉄道高架橋の桁に引かかっている漂流船を発見し、
鉄道管理者へ通報しました。
その後、船舶係留施設管理者から協力要請を受け、一時的に
漂流船を安全な場所まで曳航し係留させました。



■大阪支店 丸山作業所（京都府京都市）では、
2011 年 9 月
現場周辺と伐採木仮置き場周辺の
道路の清掃を行いました。



■東京支店 汐見台隧道補修工事（神奈川県横浜市）では、
2011 年 11 月から 2012 年 2 月まで、
月 2 回のトンネル内の清掃（歩道のゴミひろい、落ち葉清掃）
を実施しました。



■東京支店 代田作業所（東京都世田谷区）では、
2012 年 1 月
除雪作業を現場周辺と新代田駅近辺で行いました。



■東京支店 八条橋補強作業所（埼玉県八潮市）では、
2012 年 2 月
河川に設置した浮足場に漂流および周辺の
ごみを撤去・処分しました。

地域貢献活動-2



● 地域貢献

当社では、現場周辺の住民の方々や地域への貢献活動も積極的に推進しています。



■東京支店 代田作業所（東京都世田谷区）では、2011年5月と6月
近隣小学校の児童の畑づくりと麦の収穫・脱穀作業のお手伝いをしました。
児童たちの貴重な農業体験に、少しでもお役に立てたのではないかと考えています。



■大阪支店 睦寄町作業所（京都府綾部市）
では、2011年5月
現場近くの名所である“大岩の滝”への案内
表示看板を、地元自治会へ寄贈しました。



■大阪支店では、2011年6月
地元を活動エリアとする“ブナを植える会”
の植樹に大阪支店から2回にわたり延べ18
名が参加しました。
事前準備の草刈りやブナの苗木の植樹をさ
せていただきました。会の皆さまには大変喜ん
でいただき、感謝状もいただきました。



■東北支店では、2011年10月
支店の地元仙台市のお祭り“第5回富沢市民センターまつり”の開催にあたり、東北支店の駐車場（20台）を無償で提供し、駐車場の誘導を行いました。
当日は地元の楽しみにささやかながら協力することができました。



■札幌支店 金山ダム作業所（北海道空知郡南富良野町）では、2012年1月
地元イベント“かなやま湖氷上ばかんす！”の開催に、ささやかながら協力しました。
当日は、職員の家族と共に参加し、地域の方々と楽しい交流ができました。

● インターンシップ

次世代の建設従事者育成のため、インターンシップによる学生の受け入れも行っています。2011年には以下の学生を受け入れ、工事体験、実習を通じ、土木工事の理解を深めていただきました。

- ・2011年7月 八戸工業高等専門学校 学生1名
- ・2011年8月 東洋大学 学生1名

日特建設株式会社

NITTOC

本店

〒104-0061 東京都中央区銀座8-14-14
TEL.03(3542)9111(大代表) FAX.03(3542)9133

札幌支店

〒004-0041	札幌市厚別区大谷地東4-2-20	TEL.011(801)3611(代) FAX.011(801)3633	旭川営業所 函館営業所 道東営業所	TEL.0166(34)1204 TEL.0138(35)7010 TEL.0155(24)5600
-----------	------------------	---	-------------------------	--

東北支店

〒982-0036	仙台市太白区富沢南1-18-8	TEL.022(243)4439(代) FAX.022(243)4438	青森営業所 盛岡営業所 秋田営業所 山形営業所 福島営業所	TEL.017(773)7275 TEL.019(663)6100 TEL.018(863)3035 TEL.023(641)5988 TEL.024(536)1800
-----------	-----------------	---	---	--

東京支店

〒104-0044	東京都中央区明石町13-18	TEL.03(3541)6221(代) FAX.03(3541)6373	長野営業所 群馬営業所 宇都宮営業所 水戸営業所 埼玉営業所 千葉営業所 横浜営業所	TEL.026(228)6761 TEL.027(253)2305 TEL.028(637)3567 TEL.029(246)2700 TEL.048(647)6981 TEL.043(225)8023 TEL.045(450)5553
-----------	----------------	---	--	--

北陸支店

〒950-0864	新潟市東区紫竹5-26-1	TEL.025(241)2234(代) FAX.025(241)2229	佐渡営業所 上越営業所 富山営業所 金沢営業所 福井営業所	TEL.0259(55)2332 TEL.0255(44)4750 TEL.076(452)2766 TEL.076(240)0111 TEL.0776(38)6499
-----------	---------------	---	---	--

名古屋支店

〒460-0008	名古屋市中区栄1-16-6-8F	TEL.052(202)3211(代) FAX.052(202)3212	岐阜営業所 静岡営業所 三重営業所	TEL.058(275)0206 TEL.054(202)2090 TEL.059(225)6575
-----------	------------------	---	-------------------------	--

大阪支店

〒530-0028	大阪市北区万才町4-12-8F	TEL.06(6312)4621(代) FAX.06(6312)4624	京滋営業所 神戸営業所 奈良営業所 和歌山出張所 高松営業所 松山営業所 高知営業所	TEL.077(531)1820 TEL.078(577)2570 TEL.0747(22)5571 TEL.0739(23)3110 TEL.087(840)4151 TEL.089(946)0771 TEL.088(861)4171
-----------	-----------------	---	--	--

広島支店

〒730-0803	広島市中区広瀬北町3-11	TEL.082(231)2109(代) FAX.082(231)2310	鳥取営業所 松江営業所 岡山営業所 山口営業所	TEL.0857(31)0823 TEL.0852(21)7317 TEL.086(226)1429 TEL.0839(25)4258
-----------	---------------	---	----------------------------------	--

九州支店

〒812-0027	福岡市博多区下川端町1-3	TEL.092(271)6461(代) FAX.092(271)6482	佐賀営業所 長崎営業所 熊本営業所 大分営業所 宮崎営業所 鹿児島営業所 沖縄営業所	TEL.0942(85)9481 TEL.0957(36)5001 TEL.096(382)1639 TEL.097(552)4222 TEL.0985(23)1406 TEL.099(227)0901 TEL.098(861)0739
-----------	---------------	---	--	--

直轄グラウト部

〒104-0044	東京都中央区明石町13-18	TEL.03(3542)9131(代) FAX.03(3546)2183
-----------	----------------	---

試験所

埼玉試験所	TEL.0480(85)2755
-------	------------------

お問い合わせ

